…♫ 校歌を訪ねて♪…

香川県立高松高等学校

校歌

作詞＝河西　新太郎
作曲＝芥川　也寸志
（昭和26年12月17日制定）

一、世紀新たな　陽に映えて
朝雲匂う　屋島山
おゝ眉清き　若人が
向学の念　揺ぎなく
潑剌挙る　意気を見よ

二、平和かゞやく　波よせて
鏡と澄める　玉藻浦
おゝ純潔の　若人が
真理の道を　究めゆく
独立自主の　熱意見よ

三、仰ぐ紫雲の　松風に
雪持笹の　さみどりに
おゝ希望わく　若人が
自由と愛の　血に燃ゆる
わが高松高校の　自治を見よ

校歌一番に謳われる屋島山

玉藻浦（校歌二番）に浮かぶ高松城跡の艮櫓

明治26年開校の香川県尋常中学校と，同じ時期に校名を改称した香川県高等女学校が，戦後の学制改革で統合され，高松高等学校となりました。共学後もそれぞれの校歌が存続したため，新校歌制定の機運が高まったとの由。当時の学校新聞には，生徒が強い関心を寄せ，自治会は校歌制定委員会を設立し，積極的に活動したことが記されています。

新校歌の制定は新たな校風を興す，との認識でした。在来の類ではなく，真理を究めようとする清新なロマンティシズムと普遍的な人間感情から放たれる気高さに満ちた校歌を生み出そうとしたのです。全校から湧き上がる熱意とともに，将来に至るべき理想の校風を新校歌に込めようとの意気を感じます。

ただ，一年半を経て適当な作品は集まらず，結局，作詞は昭和５年卒業の詩人・河西新太郎に依頼，その作より選ばれます。また，作曲は芥川也寸志に託したのでした。その父・龍之介は，本校明治41年卒業の大先輩である菊池寛との交誼が厚く，早逝の文学者に思いを馳せて，菊池が芥川賞を創設したことなど深い縁を覚えます。

旧正門から見た現在の校舎と体育館

今年，125周年を迎える本校に校訓はありません。しかし，校歌２番に謳われる「独立自主」がそれに代わるものとして受け継がれています。この校歌の制定過程もその一如でしょう。旧制中学の「至誠一貫」や高等女学校の校章「雪持笹」が示す不屈と忍耐の伝統精神を併せ，これからも自由と自治が高らかに謳歌されるよう願うばかりです。

（文責　校長　溝渕祥民）